

キュリオシティ・ドリヴンの基礎科学、イノベーションと知識移転 金属イオンを用いた化学を例にして

ペーター コンバ教授
ハイデルベルク大学 無機化学研究所
科学技術計算総合センター(IWR)
マックス・プランクスクール・生命科学(ドイツ ハイデルベルク)
peter.comba@aci.uni-heidelberg.de

基礎科学の文化的意義は、知の創造に大きく貢献することだ。知見の充実とイノベーションはコミュニティ内外の競争に不可欠で、「今日の世界はあらゆる面で、政治や国際関係でさえ、化学の影響を受けている」(ライナス ポーリング:1984)。知とイノベーションが極めて重要な社会的意味を持つため、サイエンス・コミュニケーションと知識移転は益々重視されている。今回、金属イオン化学者コミュニティの根本的な関心であるキュリオシティ・ドリヴン(好奇心主導型)での発見を議論し、知識移転でそれらが社会に感心をもたらすイノベーションとなったところを示す。